身体行動制限者のための新しい生きがいの提供
～頭脳スポーツ向けのロボットサービス～
オルボ(ALBO)

顧客
身体を自由に動かせない人
身体的自由がないor制限されているが、
感覚や頭の思考回路は侵されることはない

課題
身体的な制限により生じる孤独
→鬱や認知症の原因にもなる社会課題
生き方の選択肢が少ない

既存の取り組み
株式会社オリィ研究所
障害者の遠隔就労を可能にする
分身ロボットカフェ
iPresence合同会社
テレロボによる遠隔ビジネスや
テレロボによる面会

遠隔でのコミュニケーションが可能となり、
就労という選択肢の発現

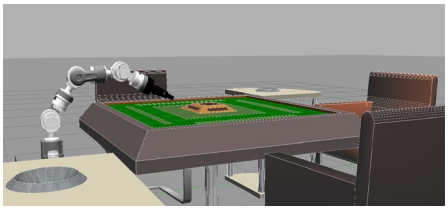
まだまだ生き方の選択肢は少ない ＋ 娯楽という選択肢がない

頭脳スポーツ向けのロボットサービスによる
コミュニケーション手段の提供（ALBO）

頭脳スポーツ：
高い思考能力を用いて競われるゲームを
一種の「スポーツ」と見なしたもの
例）麻雀、将棋等

娯楽として頭脳スポーツを選んだ理由
思考を競うゲームであり、
身体的優位性が少なく、
行動制限者でも楽しめる

最初に取り組む頭脳スポーツ（麻雀）
- 知能低下の予防効果
- 麻雀ありの老人ホーム事例
  （全国には現在1,337件）
- 高齢者に対するデイサービス等の事例
- プロ雀士の方がALS発症による引退事例



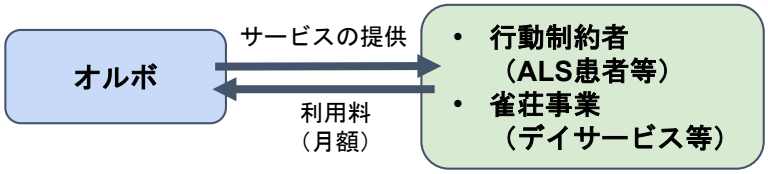
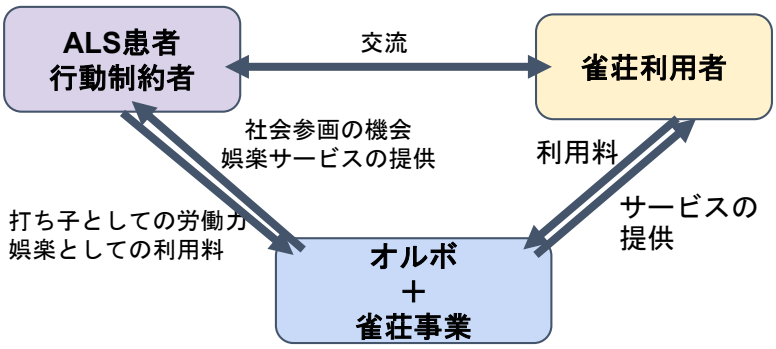
提供価値
- 娯楽の参加による孤独の解消
- 社会的コミュニケーションの場の
  確立と拡大
- 新しい働き方の発現

マーケットサイズ

体が不自由な方 精神的病	行動制約者3400万人 ・ひとり暮らし高齢者は900万人 ・病気やけがで学校に通えない子どもが4万人以上 ・ひきこもりの推計数は54万人 ※オリィ研究所参考
ALS患者さん	日本でALS患者約1万人

初期開発費用試算
初年度費用：4000万
- 環境・設備投資費用：1000万
- 運転費用：1000万
- 開発費用：2000万

サービス提供形態
①レンタルによるサービス提供



②雀荘によるサービス提供